

平成31年度 港区立青南小学校経営方針

港区立青南小学校
校長 関 幸治

1 学校経営の基本的考え方

東京都及び港区教育ビジョンの基本理念を踏まえた青南小学校の教育目標の達成を目指した学校経営を推進する。青南小学校らしい質の高い特色ある教育活動を推進する。

港区学校経営の視点

- ◎ 子どもたちが安全で安心して過ごすことができる学校
- ◎ 子どもたちが生き生きと楽しく学ぶことができる学校
- ◎ 保護者や地域に信頼される学校

2 青南小学校の教育目標

よく考える子
思いやりのある子
体をきたえる子

あいさつと笑顔あふれる青南小学校
～いつでもどこでも青南の子～

- 気品と風格にあふれた青南小学校のよい伝統を受け継ぎ、心身共に健康で国際社会で信頼される人間の育成を目指す。
- 互いに認め合い、高め合いながら、「学力の向上」「豊かな心の育成」「健康な体づくり」を目指す。
- 徳・知・体のバランスのとれた子供を育てるために保護者・地域と連携を進める。

(1) よく考える子

自ら思考判断し、表現する子どもの育成

- ① 課題解決のために学び合い、認め合い、表現する力を育てる。
(課題解決型の学力)
- ② 体験型授業・本物に触れる授業を通して、知的好奇心を揺さぶる。
(興味関心意欲の向上)
- ③ 学校図書館・地域図書館を活用し、自ら考え、調べる力を育てる。
(探求型の学習)
- ④ 各教科の基礎基本を確実に身に付けさせる。(習得型の学力の定着)
- ⑤ 蓄積した知識や技能を他教科や生活において活用させる。(活用型の学習)

(2) 思いやりのある子

自分を大切にすると共に相手も大切にすることのできる子どもの育成

- ① 気持ちのよいあいさつを習慣化する。
- ② 善悪の正しい判断をし、進んでかわわり、行動できる子どもを育てる。
- ③ 相手の気持ちやその場の状況を考え、人を思いやる気持ちを育てる。

(3) 体をきたえる子

運動の楽しさを実感し、進んで体力向上に努める子どもの育成

- ① 自分の目当てをもって、様々な運動・競技に挑戦する力と技を磨く。
- ② 基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ③ 美しい姿勢を保て、体力のある子どもを育てる。

3 教育目標を達成するための基本方針

(1) 長期的な対策

- ① 全教育活動において、人間尊重の精神を基調に、思いやりの心やボランティア精神を身に付けた人間性豊かな子どもを育成する。そのために、青山アカデミー内の連携を密にし、地域の一員として、社会に貢献する生き方や将来の進路を考えさせる場を設定する。
- ② 自ら学ぶ意欲を高め、一人ひとりの心身の発達や個性・能力を認め合う中で、自他のよさを伸ばそうとする子どもを育成する。そのために、地域の人材や地域図書館・学校図書館を活用し、直接体験的な学習や間接体験的な学習を取り入れ、多様な学習活動の場を設定し、言語活動を充実する。自ら考え、自ら学ぶ、課題解決的な学習により、思考力・判断力・表現力を高める。
- ③ 学校や地域に誇りを持ち、規範意識を持ち、いじめを許さず、社会性を身に付けた子どもを育成する。そのために、校内体制を整備し、地域の教育力を活用しながら、道徳教育・人権教育・キャリア教育の内容方法をさらに充実・改善する。
- ④ 進んで健康の保持増進に努めると共に、よりよく生きようとする子どもを育成する。そのために、食育・安全教育など、全教育活動を通して心と体の健康についての理解を深め、体力づくりに計画的に取り組む場を設定する。
- ⑤ 社会の変化に主体的に対応し、様々な人と共に生きていくための行動力と豊かな国際感覚を身に付けた子どもを育成する。そのために、コミュニケーション能力や相手を尊敬する心を高めるとともに、情報モラルや環境問題等、今日的な課題に対する関心をもたせ、主体的に解決する意欲や態度を育てる。

(2) 中期的方策 学校教育目標の実現を図る

- ① 「よく考える子」を育てるために
 - ア 思考力・判断力・表現力を育成するために、言語活動をすべての教育活動において重視し、授業改善に努める。
 - イ 体験的な学習の学習を取り入れるために、保護者や地域との連携を行う。
 - ウ 見通しをもった授業を行い、課題解決的な学習指導を実践する。
意図的計画的な教育活動を行う。（年間計画の作成、時数記録と週案簿の提出）
 - エ 学校図書館・地域図書館を活用した、調べ学習の充実を図る。
 - オ 児童の実態を知り、一人ひとりの児童理解のもと、個に応じた指導の推進を行う。少人数指導、T T、算数習熟度別指導の充実を図る。

目指す授業

「めあてを明確にした授業」

「興味関心意欲を高め、知的好奇心を育てる授業」

「自分の考えをもたせる授業」

「友達と学び合い、自らの考えを広げたり深めたりする授業」

「振り返りの時間をとり、1時間毎の評価を大切にする授業」

- ② 「思いやりのある子」を育てるために
- ア 温かい関係づくりの基本である、あいさつのできる子どもに育てる。
 - イ 社会生活の基本的なルールを身に付けさせる。「青南の子のやくそく」を周知徹底するよう、教員は意図的計画的に指導を行う。
 - ウ 「青南文化芸術サロン」を活用し、感性を豊かに育てるための指導を行う。
 - エ 縦割り班活動を通して、異学年との交流を行い子ども相互の関係を深める。高学年児童の思いやりあるリーダーシップを育てるとともに、下学年児童には、高学年児童に対しての尊敬と憧れの気持ちの醸成を図る。
 - オ 中学校・幼稚園・保育室等と連携し、異年齢交流を深める。

- ③ 「体をきたえる子」を育てるために
- ア 早寝・早起き・朝ご飯の啓発に努め、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
 - イ 姿勢指導を継続的に行い、健康な体をつくる。
 - ウ 体育の授業・休み時間を活用し、様々な運動に挑戦する子どもを育てる。
 - エ スポーツ選手との出会いから、運動への興味関心を高め、楽しんで体を動かそうとする子どもを育てる。
 - オ 食育の推進のために、保護者と連携し、ランチルーム給食を通して指導を行う。

4 今年度の方策

(1) 学習指導

児童一人ひとりが、何を学ぶかを意識し、何を学んだのかを自覚できるようにする。課題の発見と解決に向け、主体的・協働的に学ぶ学習を多く取り入れていく。

- ① 国語科で基礎的基本的な表現力を確実に身に付けさせ、各教科における言語活動を充実させる。～言葉の力を付ける～

「話すこと・聞くこと」

話し合い活動：ペア学習・グループ学習・全体での話し合い・発表活動・プレゼンテーション・スピーチ・討論・ポスターセッション

「書くこと」

長文の指導 短作文の指導

「取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」の指導過程を大切にし、それぞれの過程において、書くことの力を育てる。

- ② 思考力・判断力・表現力を育てるために、単元の構成を工夫して指導する。
- ③ 児童同士の学び合い・かかわり合いを取り入れた指導方法を工夫する。教師主導から、子ども主体の授業に改善する。
- ④ 児童が単元の見通しをもてるように工夫し、毎時間の授業の振り返りを行う。座席表や名簿を使い、毎時間の適正な評価を行い、指導に生かす。
- ⑤ 体験的な学習を積極的に取り入れる。（施設や美術館見学等）
（生活科・社会科・理科・総合的な学習の時間・図工科）
- ⑥ 課題解決・問題解決的な学習を取り入れる。図書館活用の授業を行う。
- ⑦ 理科教育を推進し、地域や保護者に授業を公開する。（公開講座の実施）
- ⑧ 校外学習は、教科・領域の指導と関連させる。

(2) 生活指導

- ① 挨拶を全児童が習慣化できるように指導を工夫する。
- ② 地域でのボランティア活動や地域や保護者とのかかわりから思いやりの心や社会貢献・社会参画意識を育てる。
- ③ 「青南の子のやくそく」の周知徹底し、基本的な生活習慣を身に付け、社会性や自己指導能力を育てる。
- ④ 校外での学習や、様々な人とのかかわりから規範意識を向上させる。
- ⑤ 安全教育の充実を図り、学校内外の安全について具体的な指導を推進する。
(安全マップを毎年4年生が作成し、発表を行う)
- ⑥ 家庭や地域社会との連携を密にし、協力し合って健全育成に努める。

(3) 進路指導 (キャリア教育)

- ① 縦割り班活動を用いて、児童にリーダーシップ、フォロアーシップを発揮させ、人間関係形成力を高める。
- ② 様々な職業の方に接することで、生き方や仕事内容を学び、自己の生き方を考えられる情報活用能力を高める。
- ③ 当番活動や係活動を通して、自己の力で課題を解決させ、意思決定能力を高める。

(4) 特別活動

- ① 特別活動35時間の指導計画のもと、評価規準を明確にし、学級活動を行う。
- ② 児童が自治的自発的な活動を行えるよう、計画的に、実行できる機会を作る。
 - 学級活動(1)(学級会)では、課題を子どもたち自ら解決する機会とする。
 - 集会活動では、単に楽しいことをやるのではなく、目指す学級像の具現化など、目的意識をもたせるようにする。
 - 係活動は、当番以外の仕事で自分たちにできることを全員で話し合って役割分担させる。創意ある活動を子どもたちが工夫できるようにする。
- ③ 児童が自ら努力目標を自己決定し、実現に取り組めるようにする。
 - 学級活動(2)では、児童の問題意識を高め、児童が自分に合った具体的なめあてや方法を自己決定できるようにする。
- ④ 児童自らが自分らしい生き方を実現できるようにする。
 - 学級活動(3)では、多様な他者と協働しながら、自分なりの人生をつくっていく力を育ていけるようにする。
- ⑤ 縦割り活動を通して、高学年児童のリーダーシップを育成し、また、下学年児童にはフォロアーシップをもたせ、「青南の子」としての自覚を高め、連帯感を高める。
- ⑥ 表現活動の場の設定
 - 学芸会 俳句会 集会活動 等 (2月の草田男展の開催)
 - 土曜日集会の充実(20分)「わくわく」タイム
(音楽朝会・体育朝会 委員会発表 開校記念集会 等)

(5) 特別支援教育・教育相談

- ① 配慮を要する児童の共通理解を図り、学校全体で取り組む。
毎学期、特別支援教育・教育相談研修会を実施する。
- ② 特別支援教室を効果的に活用するため、巡回指導教員を中心に、特別支援教室専門員と連絡を密にしていく。

- ③ 特別支援の必要な児童は個別支援計画を立て、個に応じた指導の工夫を進める。
 - ④ スクールカウンセラーとの連携を密にとり、児童の相談・保護者の相談に気軽に応じられるような体制をつくる。
- (6) 環境教育の充実
- ① 環境（EMS）全体計画を基盤に環境教育を推進する。
 - ② 「青南みんなでエコプロジェクト」に全教職員と全校児童と取り組む。また、青南幼稚園との連携を試みる。
- (7) 体力づくり
- ① 全校運動の取組（体育朝会）や休み時間の充実の充実を図る。（第2校庭を有効に活用する。）
 - ② 体育授業の充実を図る。
 - ③ 食育の推進（給食指導の充実）を図る。
 - ④ 生活習慣（早寝早起き朝ご飯）の普及を行う。
- (8) 情報教育
- ① 情報処理能力の基礎を養うと共に、情報モラルの確立を図る。
 - ② 積極的に電子黒板や電子教科書、タブレットの活用を図る。
 - ③ 人型ロボットを活用し、基本的なプログラミング教育の実施を図る。
- (9) 地域、保護者との連携
- ① 土曜日の活用
（年間計画に位置付け、学校・学年便りで案内する。）
- 「確かな学力向上」の授業
（課題追究学習・少人数指導・発表・学び合いや伝え合いの場面）
 - ゲストを招いた授業
 - 地域や保護者と共に考える公開授業
（道徳授業地区公開講座・セーフティ教室・理科授業公開講座等）
- ② 地域・保護者向け学校公開
学期に1回ずつ（6月2日間・9月2日間・1月2日間）実施する。
 - ③ 学校行事の公開
（運動会・学芸会・道徳授業地区公開講座・学校保健委員会・薬物乱用防止教室・租税教室 等）
 - ④ 地域の施設利用を積極的に行う。
（新国立美術館・岡本太郎記念館・根津美術館・秋山庄太郎写真芸術館・サントリー美術館・秋葉神社・善光寺・表参道石灯籠・表参道商店街・青山霊園等）
 - ⑤ 地域の体験的な学習・行事
児童に呼び掛け、参加を促す。
 - ⑥ 幼・小中連携の本格実施（青山アカデミー）
青南幼稚園・青山小学校・青山中学校・青南保育室との連携を強化する。
- (10) 学校への誇り
- ① 月曜朝会時に校歌を斉唱する。
 - ② 開校113周年の歴史や伝統を大切にする。

受け継いできたことを大切にする。

③ 各種コンクールには、積極的に参加する。

作文コンクール・ふるさと俳句・短歌

(11) 学校の安全

① 引き渡し訓練・不審者対応訓練の実施（毎月の避難訓練を充実する。）

② アレルギー等の対応訓練を実施（毎学期1回ずつの訓練を充実する。）

③ テンキーによる施錠（開放時間以外は、正門鍵・玄関鍵は施錠）

④ 学校設備等の整備、点検

5 特色ある教育活動

(1) 縦割り挨拶運動 挨拶の習慣化

(2) 青南文化芸術サロン構想

(3) 読書指導「青南100冊」の活用 授業での図書館活用

(4) 課題解決学習 … 学び方を学ぶ 理科教育の推進

(5) 言葉の力を付ける … 話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと

(6) 直接・間接体験的な学習の充実（人材の活用・図書館利用）

(7) 交流活動（縦割り活動・幼保中交流・異学年交流・異年齢交流）

(8) 「さわやか活動」（ボランティア活動）

(9) 環境「青南みんなでエコプロジェクト」

(10) 体力向上（休み時間の遊びの工夫・「縄跳び」の実施）

(11) 食育

(12) オリンピック・パラリンピック教育の実施

6 教職員の資質向上

(1) OJTの推進

(2) 学年・専科ブロックでの若手育成

(3) 担当主幹教諭・主任教諭による新規採用教諭の育成

(4) 自主的な研究の推進…専門性を伸ばす

(5) 校長・主幹による研修会

(6) 若手育成のためにミニ研修会の実施

(7) 服務事故ゼロ

(8) 教職員にふさわしい言葉遣いや服装

(9) 報告、連絡、相談の徹底

(10) 働き方改革への意識向上

※ 開校110周年の「**伝統・仲間・みどりでつながる 笑顔かがやく青南の子**」に込められた児童の思いを本年度(開校113周年)も継続し、意識させていく。

※ 「放課GO→クラブせいなん」との連携、協力を図る。